

調査・研修等計画届出書

令和2年11月10日

瀬戸市議会議長 様

議員名 三木 雪実



政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和 2年 11月 18日	
調査先・研修名	ふじのくに地球環境史ミュージアム	
会場名(会場所在地)	静岡県駿河区大谷 5762 番地 静岡市	
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	にじの丘学園の開校に伴い発生した小学校跡地の有効活用の検討を行うにあたり、先進事例の1つである、県立高校を改築した「ふじのくに地球環境史ミュージアム」の視察を行うもの。	
議長名の依頼	<input checked="" type="checkbox"/> 要 ・ 不要	依頼先(名称)
		ふじのくに地球環境史ミュージアム 館長 安田 喜憲
同行者名	瀬戸市議会議員 柴田 利勝・水野 良一・西本 潤 山田 治義・小澤 勝	

※行程表を添付してください。

調査・研修等報告書

瀬戸市議会議長 様

議員名 三木 雪実



政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和 2年11月18日 (0泊 0日)
調査先・研修名	ふじのくに地球環境史ミュージアム
会場名 (会場所在地)	静岡市駿河区大谷5762
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	瀬戸市にじの丘学園が平成2年4月に開校したことに伴い、市内小中学校7校が廃校となった。その内、祖東、本山の2中学校は再活用が決定しているが、小学校5校についてはまだ活用方針が定まっていない。 そのような状況下、静岡県にある旧県立高校の跡地を利用した「ふじのくに地球環境史ミュージアム」を、廃校跡地利用の先進事例として視察を行った。
調査先の事業の現状・課題 / 研修で学んだこと・キーワード等	
【事業の現況】 ○同ミュージアムは、静岡市駿河区にあった県立静岡南高校が廃校になったことに伴い、かねてより検討が進められていた「博物館構想」を同所で展開することとなったもの。 【同博物館の沿革】 ○昭和61年、「博物館構想の推進」を静岡県総合計画に位置付ける。 ○平成15年、自然史資料の収集保管業務を開始。 ○平成22年、ミニ博物館（展示）、出前博物館（講座）の教育普及活動開始。 ○平成23年、収集保管拠点を静岡南高校に決定 ○平成27年、「ふじのくに地球環境史ミュージアム」を開設	

○平成28年、一般公開

【施設概要】

- 所在地：静岡県静岡市駿河区大谷5762（旧県立静岡南高校跡地）
- 施設規模：地上3階建、建築面積約3,569㎡、延床面積9,334㎡
- 管理形態：県直営
- 人員体制：館長、副館長、企画総務課6名、学芸課6名
- 設置整備費：約12億円

【運営】

同ミュージアムは「ふじのくにの地域学の創造と人・交流・連携が導く知の拠点づくり」を掲げ①地域固有の自然の探求と自然史資料の保管・継承・活用②自然から環境分野に広がる領域の新たな地域学の創造③「有徳の人づくり」の推進④人と情報の交流、連携が導く「知の拠点づくり」を理念としている。

また、自然史と環境史を研究領域とする全国初の地球環境史博物館として、調査研究、収集保管、教育普及、展示・情報発信等の博物館機能の充実をはかり、「ソフトパワー重視」の活動を基本方針と定めている。

【常設展示の特徴】

高校であった当時に使用していた机や椅子を展示物の一部として再活用し、校舎を再利用するにふさわしい展示空間とし、あわせて学校であった名残をとどめることで来館者に過去の学びの経験を想起させ、「考える」という行為を誘発する仕掛けとした。また、「百年後の静岡が豊かであるために」という活動テーマの下、「これからの豊かさとは何か」を来館者自身が考え、答えを探す仕掛けとし各教室をひとつの単位とした10の展示室を順番に巡る方法としている。

【実績】

同ミュージアムは、平成28年の一般公開時から、管理運営費としてほぼ年間2億円前後を支出している。自然史資料の収集は昆虫136,817点、シダ植物28,622点、魚類3,629点など13区分において207,296点にのぼり、データベースに登録している（令和2年11月現在）。来館者の推移は平成28年度80,854人（開館309日）、平成29年度68,466人（同308日）、平成30年度79,676人（同311日）、令和元年度78,118人（同309日）となっている。

調査先（主な質疑・応答内容） / 研修（受講後の感想）

○別添資料参照

調査・研修の成果・考察
(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

【感想】

同ミュージアムは、県の総合計画に基づき計画されたもので昭和61年度の位置づけから、実に30年余を経て開館となったもので、十分すぎるほどの準備期間があったものである。そのため理念や活動方針も入念に練られたものとなっており、同様の博物館設置は容易ではないと思われる。

また、建築及び延床面積が瀬戸市内に再利用予定小学校のいずれより2～3倍あり、同程度の展示を考えるならば、展示スペースは圧倒的に不足している。

これらを考えると小学校跡地での展開は、困難であると言わざるを得ない。

しかしながら、このような本格的な施設を持たない愛知県にとっては、今後必要不可欠な施設であり、これの誘致は人的交流の活性化を目指す瀬戸市にとっても有益と思われる。この視察は小学校跡地の利活用を目的としたものであり、その利活用は難しいと結論せざるを得ないとしても、他に誘致条件の整う場があればそれを検討するのも有意義ではないかと考える。

① 災害時における、防災機能を有しているか

- ・静岡市から次の指定を受けています。(大谷小学校が第一の避難所とされており、今まで静岡市から避難所開設の要請は受けたことがない。)

区 分	種 別	備 考
グラウンド	一次避難地	
講堂 (153 m ²)	避難所	収容可能人数 51 人
図鑑カフェ (229.5 m ²)	避難所	収容可能人数 76 人

- ・その他に静岡市に対しグラウンドへの防災倉庫の設置を許可(行政財産使用許可)しています。

② 運営は県が行っていると聞いていますが、業務委託はされておられるのか

- ・以下の業務を委託しています。

来館者サービス業務、標本・資料整理保存業務、清掃業務、ミュージアムショップ営業業務、警備業務、消防設備等各種点検業務、バス運行業務など

③ 旧校舎を展示室に活用していますが、耐震及び耐久年数はどれくらいなのか

- ・東海地震緊急対策方針に基づく公共建築物の耐震性能の公表の中で、東海地震に対する耐震性能は「I a」と評価されています。

I a・・・東海地震に対する耐震性能が優れている建物。軽微な被害にとどまり、地震後も建物を継続して使用できる。

- ・鉄筋コンクリートの建築物の法定耐用年数は 47 年ですが、これは減価償却費を計算するために用いる数字であり、実際の耐用年数はメンテナンスや立地環境により異なるそうです。

④ ミュージアムの開館により、地域に及ぼした効果はどのようなものがあるか

- ・地元の駿河台、洋光台団地等は、1980 年代に整備された住宅団地で、住民の高齢化に加え、平成 24 年度に静岡南高校の廃校が決定し、地区の活気が無くなっていくことを憂慮していました。
- ・過去の地元自治会との交渉記録を見ると、静岡南高校の跡地に同じく文教施設であるミュージアムが開館することが決まり、地元自治会は地域が賑わうことを歓迎していたとのことでした。

⑤ ミュージアムを開館するまでの経緯についてお聞きしたい

- ・資料のとおりです。

⑥ 選考された基準と選考理由について

- ・以前から民間などが所有する既存の標本・資料の散逸を防ぐため、その収集をしており、広い

保管場所を探していました。十分なスペースを確保でき、高校の再編計画の中で跡地利用が決定していなかった、静岡南高校の跡地が候補地として残りました。

⑦ ミュージアムの立地における良い条件について

- ・鉄道や路線バスなど公共交通機関が利用できること。(学生等の利用のしやすさ)
- ・他の観光施設等と見学ルートを組みやすいこと。(観光会社対応)
- ・道路等、アクセスのしやすさ、十分な駐車場スペース

⑧ 旧県立高校を使用するにあたり、地域との合意に至った経緯について

- ・④のとおり。地域は高校の跡地への博物館設置を歓迎していました。

⑨ 他県の施設と比較すると入館料に差があるが、この金額を設定した根拠は何か

- ・当時の全国の公立自然系博物館の観覧料の平均が320円であることや、静岡県立美術館の観覧料が300円であることなどを参考に300円と設定しました。

⑩ 年間の県外県内来館者数と年齢層についてお聞かせ願いたい

- ・県外県内の来館者数の集計はしていません。
- ・来館者区分は資料のとおり

⑪ 開館して想定外の課題が発生したか。もしあればその課題について

- ・開館4年目になりますが、バックヤードの雨漏りや収蔵庫等の湿気対策など、施設の修繕工事が多くなっています。



ふじのくに
地球環境史
ミュージアム

百年後の静岡が豊かであるために

副館長

内野昌美

〒422-8017

静岡市駿河区大谷5762

Tel 054-260-7111 Fax 054-238-5870

✉ masami1_uchino@pref.shizuoka.lg.jp

www.fujimu100.jp



ふじのくに
地球環境史
ミュージアム

百年後の静岡が豊かであるために

学芸課長 | 教授

渋川浩一

〒422-8017

静岡市駿河区大谷5762

Tel 054-260-7111 Fax 054-238-5870

✉ koichi1_shibukawa@pref.shizuoka.lg.jp

✉ shibu@crux.ocn.ne.jp

www.fujimu100.jp

特別展示等	2020												2021		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
企画展示室	4/25-8/23 消えゆく隣人―静岡県レッドリストの絶滅危惧種―				9/5-11/8 第3回ふじミュージアム写真展				12/5-4/4 食虫植物展						
大絶滅展	5/23-8/23 新収蔵品展				9/5-11/8 県の鳥 サンコウチョウ										
ホットピックギャラリー	4/7-6/7		6/9-8/10		8/12-10/11		10/13-12/6		12/8-2/7		2/9-4/4				
*ホットピックギャラリーでは、当館研究員の最新の研究成果や話題になっている出来事をご紹介します。															
その他のイベント															
季節のイベント	4/25-5/6 GWイベント		7/11-8/23 夏イベント			10/24-11/3 秋イベント		12/19-1/11 冬イベント		3/20-3/28 春イベント (5周年記念)					
講演															
“天地に在りて、道を究める”	4/4	5/9						10/25	11/10				3/30		
“地球環境史学”	4/19	6/6	7/25	8/1						11/22					



ふじのくに
地球環境史
ミュージアム

Museum of Natural and
Environmental History,
Shizuoka

豊かであるために
百年後の静岡が



ふじミュージアムイベント

年間を通じて土日に、絵本の読み聞かせ、自然物を使ったペンダントやしおり作りなどのイベントを開催しています。事前予約は不要です。詳細はホームページを御確認ください。
www.fujimu100.jp/event



図書室

自然史に関する専門書や郷土の貴重な資料など約6万点の図書資料を所蔵しています。毎月第3日曜日に図書室を開放しており、資料閲覧ができるほか、ミニイベントも開催しています。



無料スペース

木のおもちゃが楽しめる「キッズルーム」のほか、自然史や地球環境史にまつわる図鑑を集めた「図鑑カフェ」を御利用いただけます。

Photo: 竹田武史



自然観察路

—生物多様性のみち—

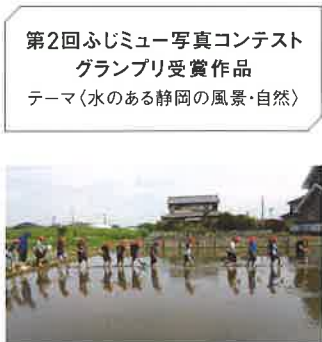
全長約400mの自然観察路内には300種以上の植物が育成し、たくさんの昆虫や野鳥が集まります。季節イベントでの利用のほか、毎月第3日曜日に一般開放を行っています。

2020.4
/
2021.3

ミュージアム
年間スケジュール



プリント部門
「春の神田川」(撮影:平井省吾)



SNS部門
「おそろおそろ」(撮影:Ume)

第2回ふじミュー写真コンテスト
グランプリ受賞作品
テーマ(水のある静岡の風景・自然)

企画展

第3回 ふじミュー写真展

2-1

2020年9月5日【土】－2020年11月8日【日】

見つけよう!伝えよう!ふじのくにの自然

第3回写真コンテスト「四季折々のしずおかの生き物」(7月12日応募締切)への応募作品から、入賞・入選した作品を展示、紹介します。ふじミュー写真展は、皆様と創る企画展です。多くの作品の御応募と御観覧をお待ちしています。コンテストの詳細はミュージアムHPを御覧ください。

日程(2020年～2021年) || 講師 | 『テーマ』

- 4月4日【土】14:00～15:00 || 小和田哲男(歴史学者) | 「歴史を学ぶよるこび」
- 5月9日【土】14:00～15:00 || 福留功男(キャスター) | 「テレビ文化を裏から見れば!」
- 10月25日【日】14:00～15:00 ||
水鳥寿思(アテネオリンピック金メダリスト/2020年東京オリンピック男子体操総監督) |
「東京オリンピックを振り返って(仮)」
- 11月10日【火】16:30～17:30 || 榎木孝明(俳優/画家) | 「表現の魅力(仮)」
- 3月30日【火】14:00～15:00 || 仲道郁代(ピアニスト) | 「音楽の魅力(仮)」

1) 1名の講師については、現在調整中です。
2) 来場次第、チラシやホームページでお知らせします。

※講師には、常設展または企画展観覧券が必要です。*応募方法につきましては、ホームページで御確認ください。

企画展

県の鳥 サンコウチョウ

2-2

2020年9月5日【土】－2020年11月8日【日】

月・日・星・ほいほいほい…

さえずりに“三光”(月・日・星)が入るサンコウチョウ。静岡県の「県の鳥」でもあるこの美しい渡り鳥(夏鳥)の生態に、2019年、静岡新聞社の二神カメラマンが迫りました。子育てから巣立ちまで、県内での暮らしを多数の貴重な写真や動画で紹介いたします。



サンコウチョウ(撮影:二神亨 ©静岡新聞社)

講演

オムニバス授業“地球環境史学”

最新の知を手に入れよう

地球科学や生物科学の分野で活躍する研究者をお招きして、専門分野における最先端の研究成果をわかりやすく、深く、面白くお伝えします。



昨年の様子

※講師には、常設展または企画展観覧券が必要です。*応募方法につきましては、ホームページで御確認ください。



食虫植物のコモウセンゴケ(撮影:小川浩平)

企画展

食虫植物展

3

2020年12月5日【土】－2021年4月4日【日】

食虫植物と冬虫夏草類のふしぎ

生産者である植物が虫を食べ、分解者である菌類が虫を食べる。「虫を食べる」という究極(?)の進化を遂げた植物と菌類。生き物の「食う－食われる」の関係に反旗をひるがえした生き物の不思議と秘密について紹介します。

日程(2020年～2021年) || 講師 | 『テーマ』

- 4月19日【日】14:00～15:30 || 岸田拓士(京都大学野生動物研究センター特定助教) |
『羊膜類の海洋進出と嗅覚の進化:クジラとウミヘビの事例から』
- 6月6日【土】14:00～15:30 || 田中周平(京都大学准教授) |
『私たちの暮らしとマイクロプラスチック』
- 7月25日【土】14:00～15:30 || 末次健司(神戸大学大学院理学研究科准教授) |
『光合成をやめた植物の不思議な生活』
- 8月1日【土】14:00～15:30 || 長澤和也(広島大学名誉教授) |
『さかなの寄生物を楽しく学ぶーこわくない水族寄生虫のあれこれ』
- 11月22日【日】14:00～15:30 || 坂本 泉(東海大学准教授) |
『東日本大震災が引き起こした東北沿岸域の海底環境の変化』
- 日程未定 || 島野智之(法政大学教授) | 『ダニとアメーバの世界(仮)』

※講師には、常設展または企画展観覧券が必要です。*応募方法につきましては、ホームページで御確認ください。

行程表

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃		特急料金 等	
2 年 11 月 18 日	瀬戸市役所前	名鉄	往復	大曾根	14.8	km	820	円		円
	名古屋	新幹線	往復	静岡	185.8	km	12,540	円		円
								円		円
								円		円
								円		円
宿泊先名称					TEL		宿泊料金			
										円
備考欄										

13,360 円

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃		特急料金 等	
年 月 日						km		円		円
						km		円		円
							km		円	円
							km		円	円
							km		円	円
宿泊先名称					TEL		宿泊料金			
										円
備考欄										

小計 0 円

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃		特急料金 等	
年 月 日						km		円		円
						km		円		円
							km		円	円
							km		円	円
							km		円	円
宿泊先名称					TEL		宿泊料金			
										円
備考欄										

バック等による割引など

小計 0 円

円

宿泊費 合計

交通費 合計

0 円

13,360 円

申請額合計 (宿泊費+交通費-割引代)
13,360 円